

## 5月25日(土) 長良憲法カフェ “象徴天皇制を考える”

5月から新天皇即位で改元し、30年余の「平成」は終わり「令和」となった。戦後生まれの人が多数を占める中、象徴天皇制は定着してきたと言える。ただ現政権は、「新しい時代には新しい憲法で」とばかりに憲法を変えようとしている。また自民党の改憲案(2012年)では、「天皇は日本国の元首」となっている。

憲法第1条は「天皇の象徴という地位は、国民の総意に基く」と書いてあり、戦前と違い天皇に一切の政治的な力を持たせていない。

吉田千秋さんの「権力は権威を利用して、自分たちの力を拡大しようとする」の言葉に納得した。私も「偉い人」に弱く、何も言えないことが多々ある。

天皇は国民ではなく、基本的人権を持たないことについては気の毒とか、この間のメディアの過熱ぶりや、神話と結び付けた報道におかしいとの意見も出た。

天皇になるのは男系男子(皇室典範)となっているが、男系が維持できたのは戦前まで側室が持てたから。なんと1735年(江戸中期)の桜町天皇から大正天皇まで9代が側室の子とは驚いた。

現在、元号使用は日本だけで、その起源は中国にあり、統治者は時間をも支配するという思想からきているとのこと。元号は5つの時代をまたいで難解だし、私は世界に通用する西暦派だ。学校で子どもたちに元号を使わせるのは、国際感覚を養う上でもマイナスでは・・と心配になる。

政権による「天皇の政治的利用」への警戒をしなければという意見が多く出た。主権者は国民なのだから、何事も「偉い人」任せにせず、自分の頭で考え行動することが大切だと思った。(井深)

# 長良九条の会だより

NO148

2019年

6月号

事務局 林

090-6769

-9809



### 今後の予定

- 6月19日(水)「もう黙っとれんアピール」16BK本店前 17時30分～
- 6月23日(日) 沖縄慰霊の日 17時～17時45分(黒っぼく) 名鉄駅交差点
- 6月26日(水)～7月9日 写真展「沖縄の今」ハートフルスクエアG
- 6月21日(金) 長良九条の会「9の日行動」サンマート前 16時～
- 7月9日(火) 平和の鐘 例年通り長良地区各寺院にて 別紙詳細
- 7月13日(土) 映画会「関東軍731部隊」長良公園 別紙参照

### みんなの広場

「父の口」(長良東 T・K)

私の父は昭和四年、農家の四人兄弟の末子として生まれました。母親は産後の肥立ちが悪く、六年後、亡くなりました。父は十四歳になって、江田島海軍兵学校に志願して行きました。

その頃、戦争真っ只中、「鬼畜米兵」という言葉を信じて、訓練された若い命を落とした同胞も多くいました。母艦も少なく、父は駆逐艦に乗船していました。広島に原爆が落ち、その跡片付けに行ったところ、あまりにも悲惨な光景にショックを受けました。そして、その時、二次被爆にaimしました。

その後、生まれた私のあばら骨は、放射能の影響で一本曲がっています。敗戦八月十五日、父の上官は切腹されたということです。私は「戦争は絶対いけない。憲法九条の戦争放棄は大切だ」と言い続けた父の思いを大切にしていきたいと思っています。

# “9条の会 岐阜県交流会”

## 地域の情勢 【改憲側と護憲側】

- ・いくつかの市や町では自衛隊の募集のための名簿（18歳と22歳）が提出されている。
- ・射撃場の見学会や中学生の「職場体験」をしているところも。
- ・神道（神社）を通じて、改憲推進の動きあり。ある神社では定期的に「憲法おしゃべりカフェ」を開催したり、改憲賛成の署名簿がおいてある神社も。
- ・一方、国民平和行進に、首長や議長が参加したりメッセージを送ってきたりするところが増えてきた。
- ・長崎や広島に中学生を派遣する自治体もある。
- ・被爆パネル展の県内での拡がりは注目すべきである。

## 地域の取り組み

- ・出席したすべての9条の会はそれぞれ、署名活動、スタンディング、憲法カフェ、集会などに取り組んでいる。
- ・前日にポスティングし、翌日戸別訪問などで成果を上げているところも複数ある。
- ・複数の自治体で、核兵器禁止条約の批准を政府に要請する決議案を提出。

発言に大いに励まされたり、学んだりした、意義ある活動交流会でした。

（林）

今日は40名以上の方が参加されていて、美濃、中津川とか遠くからの参加者は暑い中、お疲れ様でした。それぞれ、自分達の活動状況を堂々と発表されていて、感心もし、大変参考にもなりました。しかし、多くの地域で共通する、高齢化や後を引き継ぐ若者がいないこと、スタンディングのやり方など、今後の課題などに言及し、次回の連絡会につなげることも考え、申し合わせとして記録に残しておくと思いではと思った。

私たちの長良9条の会としては、「継続は力なり」とはいうけれど、ここでしばし立ち止まって振り返り、心機一転、今後の方針を変えてはと思う。

2004年4月30日、中央の9条の会は9人の呼びかけ人によって発足。9人の内、大江健三郎さんと澤地久枝さん除いて皆、お亡くなりになった。その後、2006年9月30日、「長良9条の会」を発足。以来13年、それこそ「継続は力」を実践。

そして、今思う。あれから世の中どう変わったか。私たちのやっていることは、この地域の人々にどの程度、知られるようになったのか。折あるごとに、それとなく「9条」のことに触れてみる。でも大抵の人は、野球場か救助隊としか言わない。始めた当初とそんなに変わらない。

積極性に欠けていたのを反省すべきなのか。それとも相手に届く言葉を見いだせないでいるのか。マンネリを反省してみるのも、今やるべきときかと思う。

（平塚）

ひらぎ

参議院選、岐阜一区の候補者に野党共闘が成立し、統一予定候補者に梅村慎一氏が決まった。「アベ政治を許さない」3千万人署名も今以上、もうひと頑張り。私たちの活動もここ一番、頑張り時を迎えたと言えよう。短期間の決戦だ。めいめいが出来ることをやり抜くほかない。衆参同一選も予断を許さない。衆それにしても、このところあまりに、哀しい事件が続く。根本に社会の学歴偏重。人間みな平等と言いながらも差別意識から抜け出せていないのではないだろうか。特に児童虐待が後をたたない。何もかもが劣化してきているというのか。

自分にできることは何かあるのだろうか。考えてはみるが、ほんとに難しい。

（平塚）

★ 3000万人署名

6月は34名

累計 1134名